

# 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 旭区

学 校 名 生江小学校

学校長名 岡本 和也

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・生江小学校では、第6学年23名

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○令和6年度の平均正答率は、全国平均と比較して、国語科では大きく上回る結果となった。算数科では全国平均と比較すると、平均正答率がほぼ同率となっている。平均無回答率は算数、国語ともに全国平均を下回っている。子どもたちが、粘り強く問題に取り組んだことが伺える。

また、研究教科である国語科の力がついてきていることがわかる結果となった。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

## 〔国語〕

○全国平均と比較して「話すこと・聞くこと」「読むこと」に関して上回る結果となっている。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」に関して下回る結果となっている。目的に応じた話し方や語彙力に課題が見られる。

## 〔算数〕

○全国平均と比較して、「数と計算」「図形」「変化と関係」に関して上回る結果となっている。しかし、「データの活用」については下回る結果となり、課題が見られる。様々な資料から読み取る力の育成を行っていく必要がある。

質問調査より

○児童質問紙の結果から、自尊心も高く、他者を労わる気持ちが育っていることがわかる。理科、英語についても楽しく学習に取り組んでいる様子が伺え、全国平均と比較しても「好きである」の項目の割合が高い。また、授業態度も良く、熱意をもって授業に取り組んでいる様子もうかがえる。一方で、家庭学習の習慣や、計画的に学習することへの課題は大きい。学び続ける姿勢の向上について、今後の課題である。

## 今後の取組(アクションプラン)

○学力向上については、校内研修担当者を中心に研究推進委員会を通して、児童の学力分析を進め、組織的な取組の推進を図る。

○国語科では、引き続き「書く・話す」から語彙力の向上に取り組むことでさらに言語事項の習得をめざす。

○算数科では、データを活用して問題解決ができる児童の育成をめざし、指導方法の工夫改善を図る。

---